

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー機関誌

2019年3月号

# はなしあい

題字 元総理 片山哲 筆

発行編集人

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー  
代表理事 小久保 正

発行所

日本クリスチャン・アカデミー  
京都市左京区一乗寺竹ノ内町23  
075 (711) 2147

NIPPON CHRISTIAN ACADEMY

第602号

本号がお手元に届くのは、3・11から8回目の記念日の頃だと思ふ。筆を執り始めた今日は1・17から24回目の記念日である。私の中では深く1・17と3・11は繋がっている。1・17―私は神戸YMCAのスタッフとして被災地支援の只中にいた。語り尽くせぬ思いと記憶は、私の中でもリアルタイムの出来事として生きている。

3・11から1年半後、私は日本クリスチャンアカデミー関東活動センターの「今日の課題」企画で「東日本大震災、その後の被災地へ災害と心のケア」という現場話を報告させていただいた。「はなしあい」2012年11月号で(報告)私は被災者の死別・喪失の問題と共に、支援者の燃えつきや孤立・孤独というトラウマについても言及した。3・11は私にとって「現在進行形」で、今も臨床心理の専門家と共に東日本大震災の支援者のケアプログラムを続けている。被災者に寄り添う支援者は様々な葛藤、無力感や焦燥感と共に心身が疲弊する日々を過ごしておられる。今回は、阪神・淡路大震災当時の神戸の定住ベトナム人

コミュニティと「カトリック鷹取教会と奇跡のイエス像」の物語を分かち合いたい。神戸市長田区では、西神戸YMCA(当時)が地域に根差した支援を行っていた。近隣の鷹取町は定住ベトナム人の集住地区でカトリック鷹取教会(当時・神田裕神父)があった。長田区は在日コリア

ンの方々のコミュニティでもある。定住ベトナム人の方々は姫路定住促進センターからの移住者だった。その方々は避難所には入らず、公園で青いビニールシートを張って寒さと雨露をしのぎながら避難生活をしておられた。少数者は、災害時には更に支援から遠い見えない存在であるのだ

## 1・17―きつと《奇跡》は起こる



関東運営委員

大江 浩

どの現実を突き付けられた。メディアは焼け野原と化した鷹取地区で「奇跡的に」生き残ったイエス像を報じた。悲劇を救った「奇跡のイエス」の象徴として。

「キリスト像の取材に、神田さん(裕神父)は『消火したのは人間』と繰り返して答えた。『神の奇跡』があるなら、もつと早くに消してほし

かった。それでも続く「神格化」に抵抗し、像に工事用ヘルメットをかぶせ、タオルを首にかけたこともある。『実は、キリスト像は奇跡を起こした』と語るようになる。『手を広げ、おいで、おいでをしたら、人が来た』というジョークだけれども。(神戸新聞NEXT:2005年4月17日) 私は、奇しくも震災以前に神田神父と出会う機会があり、アイコンとしてのイエス像を望まぬ日本人の信者と切に求めるベトナム人信者と

の葛藤があったと伺った。結果、ベトナム人の方々の希望が叶い、母国のイエス像はカトリック鷹取教会にやってきた。

「キリスト像は1992年にベトナムから船に乗ってやってきた、いわばポルトビープルだ。不審物の疑いがあると1カ月ほど港から出してもらえなかった。やつこのことで(カトリック)たかとり教会にやってきた。(中略)キリスト像の台座にはベトナム語、韓国語、日本語で聖書の言葉が刻まれている。『互いに愛し合いなさい』と。お互いを大切にしながら関わらば、きつと奇跡は起こるのだと確信している」(へかんちゃん日記)―震災とキリスト教とベトナム人―神田裕「阪神淡路大震災を語り継ぐ Selection15」2010年3月より転載)

私は今再び、災害が浮き彫りにする現実と「いのち」の物語について、また「私たちは共に生きられるのか」という根源的な問いと救いの奇跡について深く考えさせられている。「希望」に繋がる救いの奇跡を深く祈りつつ。(日本YMCA同盟)

関東活動センター

●2018年度 関東フォーラム 宗教対話V  
礼拝の話し方ワークショップ(ステップ・アップ講座)

「礼拝の言葉を豊かに」(全6回)

講師：経堂緑岡教会  
副講師：元声優

友野 富美子さん

2018年9月～2019年2月 月1回火曜

会場 日本基督教団巣鴨ときわ教会



友野富美子牧師による『礼拝の話し方ワークショップ(ステップ・アップ講座)』に参加させていただきました。全6回の内3回しか出席できませんでしたが、報告を書くものとしてはふさわしくないかも知れませんが、参加させていただいた範囲で報告させていただきます。

この講座は話し方を学ぶものなのですが、最初にしたことは体のウォーミングアップでした。声は口からだけでなく、体全体で出すものである

とでした。

私が神学生の時の説教学という講義のことを思い出ししました。講義とは言っても、毎週二人の神学生が、受講者の前で説教するのです。それを聞いた学生たちに様々なコメントを出してもらったのです。コメントと言っても、実際の現場に行ったなら説教を批判する信徒はほとんどいないだろうから、この場では出来るだけ批判をすべからず、担当教授が言われたので、皆がそれこそ言いたい放題の発言をしたものでした。ある時、教授がこんな質問を私たちにしました。「御言葉が語られるのは礼拝の中でどこだと思います?」

私も含め、大方の学生は「説教だろう?」と思ったのです。しかし教授は「礼拝の中で御言葉が語られるのは聖書朗読だ。」と言われたのです。要するに礼拝の、最も要は聖書朗読にあると言われたのです。説教は、それに比べれば単なるわき役にしか過ぎないのです。

礼拝において、ともすれば牧師も信徒も特にプロテスタント教会においては、礼拝の

中で説教が中心であると思っ  
てしまっているところがあり  
ます。

それ故だからでしょうか、  
聖書朗読がおろそかに、とい  
うか軽く見られていることにな  
ったりするのかも知れませ  
ん。説教者が説教を作るよう  
に、奏楽者が礼拝の讃美歌を  
一生懸命練習するように、司  
式者が聖書の朗読を何度も練  
習するという人は以外に少な  
いと言えるのではないでしょ  
うか。

礼拝で聖書朗読の時、目を  
閉じその朗読を聞かれる方が  
おられます。そのような方に  
とって、聖書朗読によってそ  
の時まさに御言葉が与えられ  
ているのです。朗読者はその  
ように聞いている方々をどれ  
ほど意識して朗読しているで  
しょうか。

礼拝ごとに説教を語る私に  
とつてもそれは言えることで  
す。とかく、語ることにだけ  
とらわれ聞く方々に届く声  
で、そして思いで語ることで  
大切さにあらためて気づかさ  
れたワークショップでした。

聖書以外にも、絵本からと  
られた短い文章の朗読もあり  
ました。参加者ひとりひとり

が、皆の前で朗読をしたので  
すが、朗読者それぞれの個性  
を引き出して下さり、書かれ  
た状況をいかに声に出して描  
き出すかということも解説し  
ていただき、自分自身の朗読  
の仕方に良きにつけ悪しきに  
つけ、気づかされることがた  
くさんありました。

この講座を通して、学んだ  
様々なことを、講師が言わ  
れたように『讃美歌の番号  
を告げる声、「お立ちくださ  
い」というアナウンス、ある  
いは聖書朗読、詩編交読、説  
教の語り方。礼拝堂のどの席  
に座った方にもよく聞こえ、  
礼拝をいきいきと豊かにする  
ため』に生かしていければと  
思っております。

報告：平井文則(日本キリス  
ト教団巣鴨ときわ教会牧師)



関西セミナーハウス活動センター

●2018年度 修学院フォーラム「いのち」第1回  
老いの日をいかに生き、支えるか(2)  
「往きの医療VS還りの医療」わたしたちは  
どんな死に方をしたいのか?

救世軍清瀬病院名誉院長 島田 宗洋さん  
2018年11月10日(土)



人は誰も老い、死ぬ。その死に対しどのような備えするかは、与えられた生を全うするために重要な課題である。この課題にどう向き合うかを、国立小児病院や、国立療養所多摩全生園、救世軍清瀬病院などで内科医として豊かな経験を積まれた島田宗洋医師が語って下さった。島田先生は、二〇一六年に出版されたミヒヤエル・デ・リツダー著「わたしたちはどんな死に方をしたいのか?」(教文館)の翻訳者である。以下は、そ

の発題要旨である。

従来の医療は、救命・延命、苦痛の除去、社会復帰に力を注いできた。しかし、救世軍清瀬病院名誉院長の村上国男氏はかつて、医学の使命は「望ましい死への援助」であると喝破した。これは臓器中心の救命延命医療から、患者の人間全体を診る緩和医療への転換を意味する。緩和医療においては、延命装置の使用が控えられる、適度の麻薬を用いて疼痛、呼吸苦、苦悩などを緩和することが図られ、傾聴と患者の笑顔が大切にされる。これを実現するためには、先

ず意識の衰えない中に、どんな最後を迎えたいのかの希望がリビング・ウイルとして文書であるいは口頭で、家族や知人に伝えられ、本人、家族、医療者の3者で前もってケア

プランを立てておくことが必要である。リビング・ウイルは、日本では未だ法制化されていないが、すでに多くの国で法制化されている。ドイツの「リビング・ウイル法(事前医療指示法)」は、患者さんの自己決定は無条件で法的拘束力を持つ、としている。それにより、人生の終末期における「人間の尊厳」を担保している。ただし、「リビング

グ・ウイル」は権利であって義務ではない。これらの先例は、私達自身の生き方、死に方を考える上で参考になる。参加者は、医療従事者、福祉関係者、教師、牧師、高齢者とその家族など多岐に亘った。発題後に参加者から様々な個別ケースが紹介され、講師はそのどれにも丁寧に応じられたので、豊かな話し合いが展開された。

●2018年度「開発教育セミナー」第6回  
「スマート」でないスマホの裏側  
～鉱物資源の採掘からEVまで～  
(NPO法人)アジア太平洋資料センター(PARC)事務局長 田中 滋さん  
2018年12月8日(土)～9日(日)



鉱物を利用する人間の歴史は古く、金属は私たちの身近にある素材である。それにもかかわらず、鉱山開発の裏側にある多くの問題や、その上

に産業が成り立っている構造について、私たちがいかに知らずにいたか、ということへの驚きが大きかった。日本では「足尾銅山鉱毒事件」が過去の公害から学ぶ例として教科書に載っているが、現在も鉱毒は排出され続け、この先もずっと処理を続けなくてはならない。そして、世界の各地で同様の自然破壊、人権侵害、健康リスクなどの問題は続いている。フィリピン、コ

ンゴ、エクアドルなどの採掘現場で、住民らと直接かわっている田中さんのお話はリアルで、重い現実の一端を自分につながる問題として感じる事ができた。

また、モノの買い方、選ぶ方には持続可能性を考える人でも、使用後の行方や処理については思いが及んでいない場合が多い。消費者の意識の向上や、ゴミや産業廃棄物を利用する静脈産業の充実、行政からの規制や仕組みづくりも望まれる。

スマホを糸口にして考え始めたセミナーだったが、レアメタル、紛争鉱物といった現代の問題だけではなく、モノと世界とのつながりや自分の生活の仕方を問い直し、鉱物の来し方行く末に広く想いを巡らせるものとなった。



**プログラム案内**

◆**関東活動センター**

■**第10回神学生交流プログラム**

講師：戒能信生さん (日本基督教団千代田教会牧師)

校長：関田寛雄さん (日本基督教団神奈川教区巡回牧師)

日時：2019年3月13日(水)～15日(金)

会場：イエズス会鎌倉黙想の家

対象：学校推薦を受けた神学生

■**2019年度聖書を読む講座**

新しい聖書の学び「マルコ福音書をジックリと読む」(第2期)(全10回)

講師：山口里子さん (日本フェミニスト神学・宣教センター共同ディレクター)

日時：2019年4月～2020年2月(8月休会)火曜18:30～20:00  
①4月9日、②5月14日

会場：早稲田奉仕園スコットホール222号室

参加費：1,200円/学生500円

共催：早稲田奉仕園

関西セミナーハウスでは、大会議室で使用するグランドピアノを求めています。お心当たりの方は、ご一報下されば幸いです。



TEL 075-711-2115

財団本部

<http://www.academy-nippon.com>

関東活動センター

<http://www.academy-tokyo.com>

関西セミナーハウス

<http://www.kansai-seminarhouse.com/>

関西セミナーハウス活動センター

<http://www.academy-kansai.org>

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー

代表理事 小久保 正

本部事務局

〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23  
TEL 075-711-2147  
FAX 075-701-5256

関東活動センター

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18  
日本キリスト教会館1F  
TEL 03-3207-6198  
E-mail:info@academy-tokyo.com

関西セミナーハウス /

関西セミナーハウス活動センター  
〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23  
FAX 075-701-5256

関西セミナーハウス

TEL 075-711-2115  
E-mail:info@kansai-seminarhouse.com

関西セミナーハウス活動センター

TEL 075-711-2117  
E-mail:office@academy-kansai.org

■**2019年度関東フォーラム 宗教対話 I**

「日本キリスト教史を読む」Ⅲ (昭和篇全7回)

講師：戒能 信生さん (日本基督教団千代田教会牧師)

第1回「この国の讃美歌を創った由木康の生涯と信仰」

日時：5月9日(木)14:00～16:00  
会場：早稲田奉仕園セミナーハウス101号室

参加費：1回500円

◆**関西セミナーハウス**

■**月釜 清心会**

日時：2019年3月10日・4月14日(日) 9:00～15:00 受付

於：関西セミナーハウス

年会費：臨時会費1,000円  
2019年度(8回)年会費4,000円

◆**関西セミナーハウス活動センター**

■**2019年度お茶のこころと宗教のこころ**

「聖書をいっしょに読みましょう2019」  
座長：榎本 栄次さん (日本基督教団牧師)

日時：2019年4月～12月(8月除く)  
第1または第2月曜13:30～16:30 (全8回) ①4月8日、③5月13日

会場：関西セミナーハウス

参加費：1回1,500円学生500円 (抹茶含む)

定員：20名

■**2019年度修学院フォーラム「社会」**

第1回「平和を考えるー1」

「ボンヘッファーの平和倫理」

講師：山崎 和明さん (四国学院大学名誉教授)

日時：2019年4月20日(土) 13:30～17:30

会場：関西セミナーハウス

参加費：1,500円 学生1,000円 (資料、コーヒー込)

**夏休みの合宿研修におすすめ♪  
関西セミナーハウス**

学会、研究会、会議、親睦会に最適。  
懇親会は中庭でバーベキューが大人気!



12名以上の団体様にはお得な料金プランをご用意しています。(1人1泊10,900円～)

さらに学生割引、教会割引もあり。パーティー・宴会もお気軽にご相談ください。

お問合せ TEL 075-711-2115 (代)

**賛助会費・寄付金報告**

2019年1月1日～1月31日

(順不同・敬称略)

◆**関東活動センター**

寄付金(クリスマス寄付を含む)

吉見 崇一 2,000

吉崎 聡子 5,000

日本基督教団千代田教会 10,000

日本基督教団市川三本松教会 3,000

藤 知佳 5,000

日本基督教団ひばりが丘教会 4,000

日本基督教団 原宿教会 10,000

神学生交流プログラム寄付金

市川 邦雄 5,000

日本基督教団須賀川教会 5,000

農村伝道神学校 30,000

関西学院大学神学部後援会 30,000

加藤 真規子 3,000

学校法人 西南学院 50,000

日本聖書神学校 30,000

◆**関西セミナーハウス**

ジ・エアーズ 菅原直人 10,000

◆**関西セミナーハウス活動センター**

賛助会費

西岡 裕芳 5,000

宇井 裕美 5,000

寄付金(クリスマス寄付を含む)

日本基督教団希望ヶ丘教会 10,000

日本基督教団長岡京教会 10,000

藤田 恭子 5,000

日本基督教団西が丘教会 10,000

高畑 恵子 3,000

伊藤 正子 2,000

日本基督教団西が丘教会 5,000

井上 勇一 3,120

田中 義信 3,000

(株)アザーコンチネンツ 10,000

日本基督教団天満教会 10,000

宇井 裕美 10,000

以上、感謝をもってご報告申し上げます。